

## 夜叉門

夜叉門は、家光の霊廟へと続く道を守護する、最後の門です。そして(夜叉門という名前は)ここを守る4体の“夜叉”に由来します。夜叉は超自然的存在の神であり、ヒンズー教の神が起源であると考えられ、毘沙門天に従う存在としても知られています。特にこの4体の夜叉は仏法の守護を担っており、どれも東方、南方、西方、北方のそれぞれ一方をも守護しているのです。外観に彫られた一連の龍と獅子も、大猷院の守護神です。かもしの上には羽目板があり、壁にはたくさんの牡丹の彫刻が施されています。これは、夜叉門が“牡丹門”と呼ばれる由縁です。牡丹は縁起の良い“王の花”として知られ、富と階級を象徴しています。そして牡丹は、今日でさえ着物に施されたモチーフとしてしばしば登場します。参道にまで及ぶ特徴的な破風は独特の日本化した中国様式で作られています。